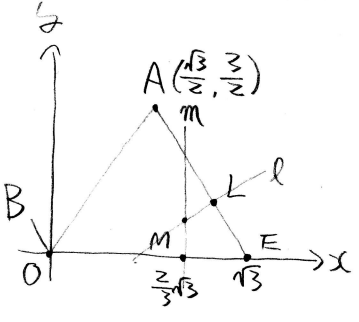


AC, Dからの等しい点の集合である直線を l
B, C, Dからの等しい点の集合である直線を m とする
 l と m の交点が球の中心である



C, Dの中点をEとする
 A, B, Eを通る平面を π とする
 $\triangle ABE$ は正三角形である

四面体を π で切った切り口を考え、左図のように x, y の座標をとる

$\triangle ACD$ は正三角形であり、 l は $\triangle ACD$ の外接円の中心を通り、外接円の半径を R とすると余弦定理より $\frac{\sqrt{3}}{2} = 2R$ $R = \frac{\sqrt{3}}{2}$

l と $\triangle ACD$ の交点を L とすると $AL = \frac{\sqrt{3}}{3}$
 同様に m と $\triangle BCD$ の交点を M とすると $BM = \frac{\sqrt{3}}{3}$

よって M の座標は $(\frac{\sqrt{3}}{3}, \frac{1}{2}), (\frac{2\sqrt{3}}{3}, 0)$

l と AE は直交するから、 l の方程式は $y - \frac{1}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}}(x - \frac{\sqrt{3}}{3})$

l と m の交点は $y - \frac{1}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}}(\frac{2\sqrt{3}}{3} - \frac{\sqrt{3}}{3})$ $y = -\frac{1}{3} + \frac{1}{2}$ $y = \frac{1}{6}$ $(\frac{2\sqrt{3}}{3}, \frac{1}{6})$

よって $r = \sqrt{\frac{4}{9} \cdot 3 + \frac{1}{9}} = \frac{\sqrt{13}}{3}$